



【本教材のガイダンスと到達目標】

- **対象者：** 神奈川県公立高校入試を受験する中学 3 年生（および指導者・保護者）
- **特に向いている生徒：**
 - 地図問題を見ると、国の形や直感的な方角だけで答えて失点してしまう生徒
 - 正距方位図法や時差、対蹠点の計算問題に苦手意識がある生徒
 - 「見た目の地図」と「実際の最短距離・方位」の違いが論理的に整理できていない生徒
- **このプリントでできるようになること：**
 1. 略地図を見たら、国名を探す前に「赤道・本初子午線・日付変更線など、必要な基準線」を軸に位置を確定できるようになる。
 2. 正距方位図法の問題で、直交地図の見た目に惑わされず、「中心からの直線」で正しい方位と大圏航路を判断できるようになる。
 3. 対蹠点や時差・経度逆算の計算手順を数式として整理し、符号や日時の繰り上げ・繰り下げミスを防げるようになる。
- **推奨する使い方：**
 - **Step 1（理論の整理）：** 第 1 章～第 5 章を読み、神奈川県が求める「空間座標処理のルール」を確認する。
 - **Step 2（自力演習）：** 第 6 章の実戦定着ドリル（全 10 問）を、解説を見ずに解く。
 - **Step 3（誤答分析）：** 解答解説の「失点パターン」を精読し、自分が「感覚で解いていなかったか」を検証する。
 - **Step 4（過去問演習）：** 末尾の「過去問演習優先度表」に従い、地図問題が中心となる年度を演習する。

【冒頭 1 分要約：地図問題の真実】

【結論】 神奈川県の世界地理で、地図は「絵」ではない。「幾何学的な座標系」である。

- ① 基準線を先に押さえる
赤道、本初子午線、日付変更線のうち、問題の位置判定に必要な基準線を先に確定せよ。
- ② 正距方位図法は「中心からの直線」しか信用しない
中心から目的地へ向かう直線のみが「正しい方位」と「最短コース（大圏航路）」を表す。
中心以外の 2 地点間を結ぶ直線には、距離や方位の正しさは保証されない。
- ③ 対蹠点と時差は「計算メモ」で解く
対蹠点：緯度は南北反転、経度は東西反転して「180 度から引く」。
時差：標準時子午線の経度差 15 度＝1 時間。東経・西経をまたぐときは経度を「足し算」す

る。

第1章：神奈川県の地図問題は「場所当て」ではなく「座標処理」だ

1. 15年連続（15/15年度・100%）で出題されている「空間座標処理」

神奈川県公立高校入試の世界地理（問1）において、略地図を用いた設問は **2012年度から2026年度までの15年間、すべての年度で一度も途切れることなく出題されている。**

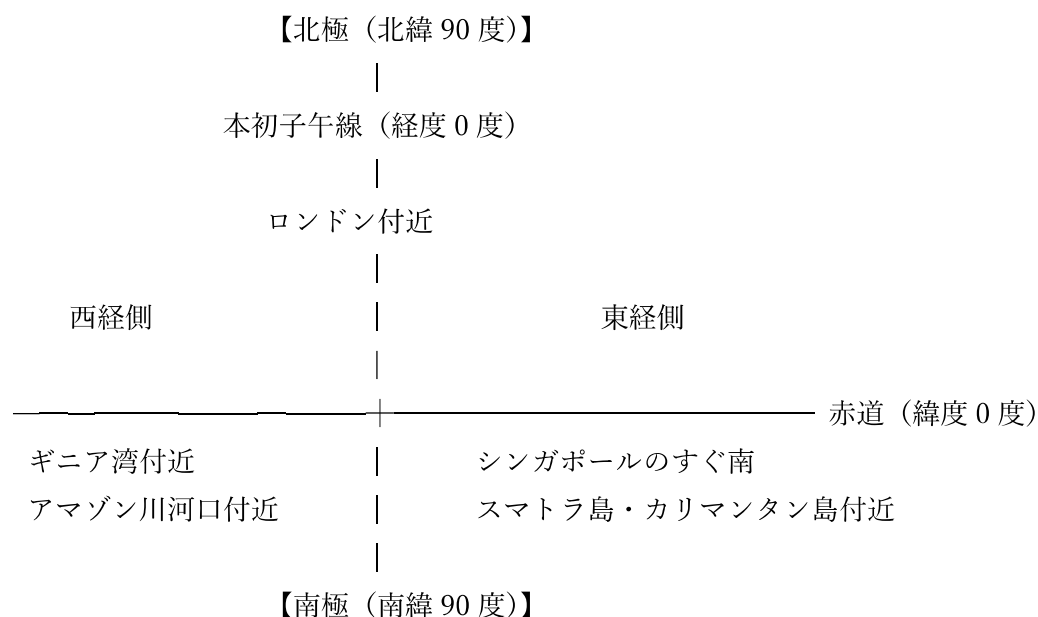
問題で提示される地図の形式は年度によって変化している。

- ・ 緯線と経線が直角に交わる一般的な「直交地図」
- ・ 東京やロンドン、北極点を中心とした円形の「正距方位図法」（5年度出題）
- ・ 南極点や北極点を中心に置いた「極中心略地図」（2013年）
- ・ 地球を半球ごとに丸く描いた「球体投影図」（2015年）

しかし、これらすべての形式に共通する出題の狙いは、「地球上の位置・方位・距離・時差を、感覚ではなく幾何学的なルールに従って割り出せるか」という点にある。単なる地名の暗記だけでは正答にたどり着けない設計が一貫している。

第2章：3大基準線の同定ルール（赤道・本初子午線・日付変更線）

世界地図が提示された際、位置判定の基準としてまず確認したいのが以下の3本である。



1. 赤道（緯度0度）の同定（15年中12年度で関与）

赤道は緯線の中で周囲の長さが最も長い線（約4万km）であり、北半球と南半球の境界である。地図上で赤道を特定する際は、以下の3つの通過点を目印にする。

- ・ **アフリカ大陸：** ギニア湾のくびれのやや南を通過する。
- ・ **東南アジア：** マレー半島の先端（シンガポール）のすぐ南、スマトラ島・カリマンタン島の中央部を通過する。
- ・ **南アメリカ大陸：** 大陸北部の付け根付近、アマゾン川の河口付近を通過する。

2. 本初子午線（経度0度）の同定（15年中10年度で関与）

本初子午線は東経と西経を分ける基準線である。